

はじめに

昭和29年生まれと同級生の手記を中心に昨年8月に刊行した『渥美半島の昭和』は、田原市内外の多くの方々に読んでいただき、続編を望む声が寄せられるなど好評でした。戦後間もない頃についても、もっと知りたいという声をいただいたことは、当時を知る方々が健在のうちに記録しておかなければと新たな使命感を感じました。

今回の『渥美半島の戦後』は、前回十分に集録しきれなかった戦後の渥美半島の暮らしについて、諸先輩方に貴重な体験を快く綴っていただき発刊することができました。

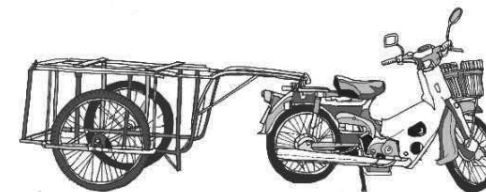
昭和20年代の日本は、終戦直後の緊迫した食糧難や混乱から、昭和25年に始まった朝鮮戦争の特需により復興の道をようやく歩み始めました。戦時中の都会からの疎開、戦後の引揚者や復員兵などで渥美郡の人口は急増しました。本書には、都会からやって来た食糧買出し、進駐軍の駐屯、新制中学校の建設、農地開拓、農家のイモ景気、豊漁が続いた地引網など、当時のくらしの様子を幅広く収めることができました。

亀山小学校に勤務していた小久保豊氏が、昭和61年に地域教材として作成された「西山の開拓」も巻末に収録させていただくことができました。これは、陸軍伊良湖試験場跡に終戦直後から入植し、苦難の末に開拓された8名の方々の体験談を記録した渥美郡の貴重な歴史資料です。

昭和30年代に入ると、「もはや戦後ではない」と言われるほど、日本経済はめざましい高度成長の時代を迎え、後半には白黒テレビ・冷蔵庫・洗濯機などが渥美郡の家庭にも急速に普及していきました。牛車や木炭バスが通っていた砂利道を、耕耘機やホンダカブが行き交うようになり、やがてマイカー時代が訪れ、水溜まりのあった砂利道はアスファルトの舗装道路に変わっていきました。豊川用水が完成した昭和43年には、日本は世界第2位の経済大国にまで発展を遂げていったのです。

私たちは、親や祖父母たちの世代が歩んでこられた昭和の時代を若い世代に伝えるとともに、渥美半島の歴史と文化を市内外へ広く発信したいと思います。

本書では鈴木政一(1915～1991)氏が残された戦後の田原市の貴重な写真を数多く使わせていただいています。政一氏は大正4年に田原町殿町で生まれ、幼少期より写真撮影に興味を持ち、昭和8年(1933)から田原町内の風景や生活を撮影されました。また、本文中の出典のない写真については、執筆者から原稿とともに提供いただいたものです。



2023年6月
渥美半島の昭和を記す会

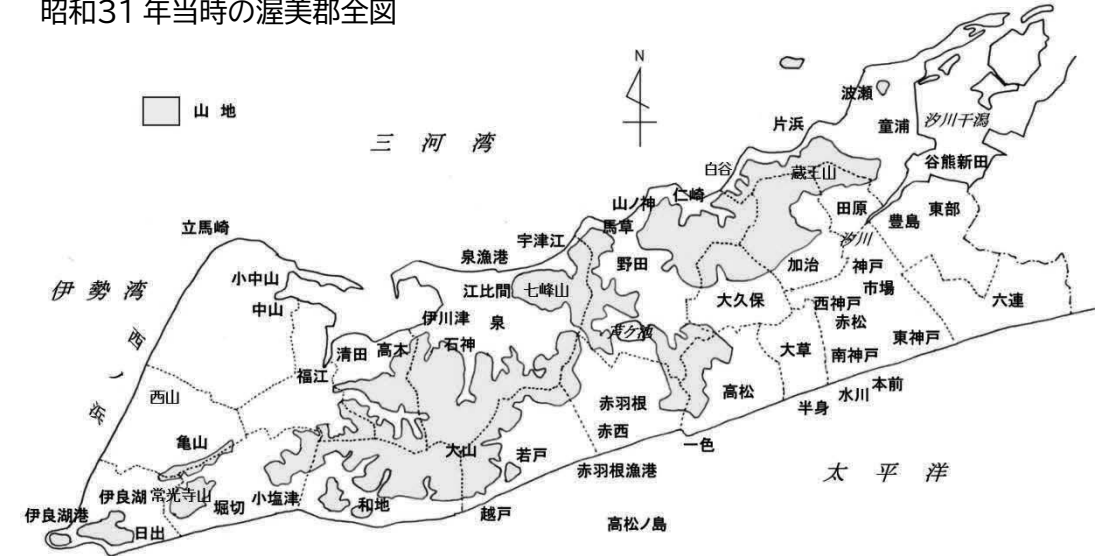
はじめに	1
もくじ	2
渥美郡のあゆみ・全図	4
南神戸本前の地引網	南神戸町 福井 貞夫 (大正15年生)	6
赤羽根海岸での漁業	赤羽根町 鈴木 孫市 (昭和2年生)	8
私の戦中・戦後	加治町 河合 武次 (昭和10年生)	11
東英館と駅前通り	加治町 河合 武次 (昭和10年生)	14
日本再建	堀切町 宮本 ゆた (昭和11年生)	15
新町にあった田原警察署	田原新町 山田 哲夫 (昭和13年生)	16
神戸の市場にあった消費組合	神戸町 三浦 孝之 (昭和14年生)	18
乗合自動車	福江町 井本 俊美 (昭和14年生)	19
昭和20年代前半の大草での暮らし	大草町 田中 義道 (昭和16年生)	20
子供時代と地引網	大草町 田中 義道 (昭和16年生)	22
海との絆	大草町 田中 義道 (昭和16年生)	23
野田村の馬草での幼年期	野田町 武山 教子 (昭和16年生)	24
大自然に生かされて…	野田町 武山 教子 (昭和16年生)	26
唐人お吉の映画撮影も行われた	白谷町 山口 光代 (昭和16年生)	27
思い出の田原	田原萱町 小久保朝雄 (昭和17年生)	28
馬草の海3話	野田町 渥美 浩 (昭和17年生)	29
大草の庚申(こうしん)さま	大草町 横田 弘道 (昭和18年生)	31
大草の「おくり神」	大草町 横田 弘道 (昭和18年生)	33
残留孤児にならなかった私	大草町 河合 睦美 (昭和18年生)	34
戦争・地震・疎開、つながるご縁	伊良湖町 杉村 克代 (昭和20年生)	35
ものづくりが身近にあった	田原新町 大久保文夫 (昭和22年生)	36
田原銀座(上町通り)を覚えていますか	田原萱町 加子大二郎 (昭和22年生)	37
本町通りの今昔	田原本町 広中 貴彦 (昭和22年生)	39
昭和37年と現在の田原市街図	40
「クワバラ・クワバラ」と落雷の思い出	片浜町 小林 一弘 (昭和22年生)	41
「太陽の季節」と片浜海水浴場	片浜町 小林 一弘 (昭和22年生)	42
伊勢湾台風	片浜町 小林 一弘 (昭和22年生)	43
幼少期の回顧	東神戸町 尾川 克也 (昭和22年生)	44
保育園の頃	白谷町 鈴木 利雄 (昭和22年生)	46

農耕と牛	白谷町 鈴木 利雄 (昭和22年生)	47
伊良湖小学校	日出町 岡田 善広 (昭和23年生)	48
子供のころの野田の郷での暮らし	野田町 加藤 正人 (昭和23年生)	49
私が育った昭和30年代の暮らし	石神町 伊藤 尋思 (昭和25年生)	52
海苔養殖と家族	石神町 伊藤 尋思 (昭和25年生)	54
恐怖の一夜、伊勢湾台風	仁崎町 加藤 克己 (昭和25年生)	56
ホテルとムベと辻井戸	田原町 八木 学 (昭和25年生)	57
海辺でのこと	堀切町 鈴木 寛美 (昭和26年生)	58
田んぼ・小川・山で	堀切町 鈴木 寛美 (昭和26年生)	59
昔の小中山の暮らし	小中山町 川口 正康 (昭和27年生)	60
子供の頃の小中山での遊び	小中山町 川口 正康 (昭和27年生)	61
いつのころか(昭和の追憶)	高木町 鈴木 誠 (昭和27年生)	62
私の家族	赤羽根町 林 雅子 (昭和27年生)	64
ふるさとになった田原	田原町 平松 厚子 (昭和28年生)	65
戦前の名残の実家	田原町 伊藤 寿康 (昭和29年生)	66
加治保育園に通っていた頃の思い出	加治町 近藤 博子 (昭和29年生)	67
「海上の道」はあった	小中山町 小川 悟 (昭和29年生)	68
西山の思い出	中山町 三竹 清一 (昭和29年生)	69
藁と暮らし	中山町 三竹 清一 (昭和29年生)	70
懐かしき大草小学校時代	大草町 藤原 喜郎 (昭和29年生)	71
谷熊新田と汐川干潟	豊島町 白井 英俊 (昭和29年生)	72
子供の役割	西神戸町 仲井 通泰 (昭和29年生)	73
昭和41年の集中豪雨の思い出	神戸町 平井 克己 (昭和29年生)	74
田原駅前通りのお菓子屋の物語	田原萱町 岩本 文彦 (昭和30年生)	75
泉漁港の思い出	江比間町 川合 繁夫 (昭和31年生)	78
回想法で聞いたカイコの思い出話	杉浦 未央 田原市図書館司書	79
西山の開拓	西山町 西山開拓者8名	80
おわりに	98

昭和	西暦	渥美郡のあゆみ
19	1944	B29爆撃機による日本本土空襲始まる(6月) 東南海地震発生(12月)
20	1945	三河地震発生(1月) 怒部隊が渥美半島に駐屯(4月) 米艦載機P51が渥美線電車を襲撃(8月) 太平洋戦争(大東亜戦争)終戦(8月) 買出し部隊が渥美半島に殺到
21	1946	西山地区の陸軍伊良湖試験場跡地開墾開始(5月) でんぷん工場が各地に新設
22	1947	日本国憲法施行(5月) 6.3.3制教育実施(3月) 新制中学校設立(4月) 野田保育所開設(5月) 学校給食開始
23	1948	田原町に自治警察署設置(3月)[昭和29年まで] 成章中学校(5か年修業)が愛知県立成章高等学校になる(4月) 保育園設置 堀切地区で電照菊栽培始まる 伊良湖避難港工事始まる 福江女子実業学校が福江高等学校になる
24	1949	農林省が豊川用水事業に着手(宇連ダム建設工事始まる)
25	1950	朝鮮戦争勃発(6月) 豊川用水起工式(12月) サトウキビ栽培ピークに 表浜で機械船を導入
26	1951	愛知県立渥美農業高等学校開校(4月) サンフランシスコ平和条約、日米安全保障条約調印(9月)
27	1952	高松一色地区で畑地灌漑事業実施(10月)[昭和30年まで]
28	1953	13号台風襲来(9月) 石門―骨山―恋路ヶ浜―伊良湖港の観光道路開通(9月) 表浜の地引網不振に 赤羽根漁港整備工事に着手
29	1954	田原ホテル開業(3月) 神武景気が始まる(12月) サツマイモでんぷん製造やマオラン栽培活況に
30	1955	田原町・神戸村・野田村が合併し新田原町が誕生(1月) 福江町・伊良湖岬村・泉村が合併し渥美町が誕生(4月) 大相撲吉葉山一行の興行(10月) 高度経済成長期に入る
31	1956	農林省の伊良湖開拓事業(西山開拓)完了(9月) 日本が国連加盟(12月) 経済白書「もはや戦後ではない」と規定
32	1957	ソ連人工衛星打ち上げ成功(1月)
33	1958	赤羽根村が赤羽根町に(1月) 「月光仮面」放映(2月) 田原町役場が南番場の現在地に移転(5月) 動力耕耘機が普及し始める テレビ受像機を持つ家庭が増えてきた
34	1959	『週刊少年マガジン』『週刊少年サンデー』創刊(3月) 伊勢湾台風来襲(9月) プロパンガスが各家庭に普及し始める
35	1960	白谷トンネル開通(5月) カラーテレビ本放送始まる

36	1961	渥美フラワーセンター開園(2月) 六連久美原でプリンスメロンを導入
37	1962	第1次農業構造改善事業開始(5月) 田原町に集中豪雨(7月) 神戸中学校と同六連分校廃止し東部中学校開校(10月)
38	1963	伊良湖港完成(3月) 田原警察署が現在地に新築移転(4月) 白木屋スーパーマーケット開店(12月) 蔵王山吉胡側観光道路完成
39	1964	名神高速道路開通(9月) 東海道新幹線が開業(10月) 東京オリンピック大会開催(10月) 蔵王山展望台完成(10月) 伊良湖―鳥羽間フェリーポート就航(11月) 渥美たくあんが活況
40	1965	伊良湖海水浴場オープン(7月)
41	1966	片浜海水浴場が港造成のため閉鎖(7月) 集中豪雨が発生し大きな被害(10月) カラーテレビ、カー、クーラーが新三種(3C)の神器となる
42	1967	田原湾埋立工事の起工式(1月) ダイヤル式黒電話が普及し自動化(2月)
43	1968	田原北部小学校と田原西部小学校が統合し童浦小学校に(4月) 東名高速道路開通(4月) 豊川用水が完成し全面通水(5月) 伊良湖ビューホテルオープン(5月)

昭和31年当時の渥美郡全図



昭和・平成の大合併による渥美郡の変遷

昭和30年の大合併で、田原町・神戸村・野田村が合併して田原町となり、福江町・伊良湖岬村・泉村が合併して渥美町になった。それまで渥美郡に入っていた渥美半島東部の二川町・高豊村・老津村と杉山村(六連は分割し田原町に編入)が豊橋市に編入したため、渥美郡は渥美半島西部の田原・赤羽根・渥美の3町に縮小した。さらに平成の大合併で、渥美郡3町が合併し田原市が誕生した。